

Sat.,Apr.15 2023 / ①12:30～ ②14:40～ ③16:50～18:15 / 1stage ¥3000, 1day ¥7500 (1stage ¥1000 for 25years old or younger)

## TAKASAGO

A priest and company from Aso in Kyushu, on their way to the capital, stop by the Takasago bay in the Harima region and see an aged couple sweeping ground under a pine tree. Answering to the question by the priest, the old man explains that both the pine tree here and the one at the Suminoe region are called “Aioi-no-matsu,” twin pines which are parted from each other at a great distance but always being together. Before taking a boat, the aged couple reveal themselves as spirits of those pine trees suggesting that the priest should come over to the pine tree in the Suminoe region to see them. When the priest and company arrive there later, the old man appears in his true form, the god of Sumiyoshi Myojin, dances and celebrates the peace and longevity of the reign.

## UKIFUNE

A traveling priest stops at Uji on his way back to the capital and asks a woman on the boat if she could show him some interesting spots around. She talks about the story of Lady Ukifune, who lived in the area long ago. Lady Ukifune, being loved by two noblemen, Kaoru and Niou, was not able to handle such a distressful situation and tried to end it by drowning herself. However, she was saved and hid herself as a nun at Ono. Before disappearing, the woman suggests that the priest come to Ono to save herself from the evil spirit. While praying for her soul at Ono, the ghost of Lady Ukifune appears and appreciates his kind prayer which finally gets rid of her suffering.

## KUCHIMANE

A master obtains good sake and asks Taro-kaja to bring someone to drink with him. Taro-kaja, who loves sake, offers himself as a company but the master wants someone else. The man he brings is notorious for bad behavior when he gets drunk. The master tries to get rid of the man peacefully in vain. Expressing his displeasure, Taro-kaja intentionally repeats whatever the master says and does, and makes situation chaotic.

## SHARI

A priest visits the Sennyu-ji temple in the capital to worship the Buddha’s holy bones, *shari*. A rural man joins him and shows respect for Buddha together for a while. Suddenly, with the sounds of thunder, the rural man reveals himself as a demon who once failed in stealing *shari*, grabs the bones and flies away. Idaten, a guardian god of Buddhism, appears, chases him and takes the bones back from the demon.

- お申し込みは出演能楽師、または金春円満井会までどうぞ。
- 上演中の無断撮影、録音、録画は固くお断り申し上げます。
- 出演者、曲目は都合により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

<主催>

## 公益社団法人 金春円満井会

komparu-emmaikai

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-27-7 アルファ西荻窪 2F

電話 03-6913-6714 FAX 03-6913-6775

ホームページアドレス

<https://www.komparu-enmaikai.com/>

## 高砂 (たかさご)

阿蘇の宮の神主友成（ワキ）は、都へ向かう途中に播州高砂の浦に立ち寄る。そこに老夫婦（前シテ、ツレ）があらわれ、松の木陰を掃き清める。友成が「高砂の松」や「住の江の松」との相生の謂れについて尋ねると、老夫婦は古今集の序を引用して相生の松の由来を語り、さらに松が万木に優れてめでたい謂れを説く。友成が老夫婦の名を問うと、二人は高砂と住の江の神が仮に相生の夫婦の姿として現れたのだと答え、住吉で待っていると告げて沖の方へ去る。友成が住の江に行くと、先ほどの老翁が住吉明神（後シテ）の姿で現れ、御代を讃えて舞を舞い、千秋万歳を寿ぐ。

かつて私は、高砂神社と住吉大社を訪れました。高砂神社の境内には、相生の松や友成ゆかりの木があり、静かで落ち着いた様子でした。住吉大社の境内はとても広く、大きな赤い反橋もあり、多くの参拝者ににぎわっていました。

高砂は、結婚式でもよく謡われるように、とてもおめでたい演目です。前シテでは高砂神社の神聖な空気感を描けるように謡い、後シテでは住吉明神の華やかな雰囲気を出せるように力強く舞い、今年度の円満井会定例能の初めの一番として幸先の良いスタートを切れるよう勤めたいと思います。(安達)

## 浮舟 (うきふね)

都方の僧が大和国初瀬の観世音での参籠を終え帰途、宇治の里で柴積み舟に掉さす里女と出会う。僧が宇治の名所を教えて欲しいと乞うと、女は、昔この宇治の里で薫大将と匂宮の 2 人から愛されたが、ついには行き方知らずとなった浮舟のことを物語りする。さらに僧が女の住処を尋ねると、小野の横川の比叡坂と答え、「なお物の怪の身に添いて悩むこと」ある身であると言い残して女は姿を消す（中入）。所の者から浮舟の子細を聞いた僧が小野に赴き甲いの読経をしていると浮舟の霊が現われる。薫と匂宮との間で思い悩んだ末に入水に至ったこと、横川の僧都によって助けられたことなど、物の怪に憑かれていた時の有様を見せるが、最後は法の力で成仏出来たと喜びを語り、明け立つ横川の杉へ消えてゆくのであった。

『源氏物語』の最後を飾るヒロイン、浮舟の物語を基にした能です。「浮船、これは素人よこを元久といふ人の作。節は世子付く」（『申楽談義』）。横越元久という人物が作詞、世阿弥がそれに節を付けた曲ということです。

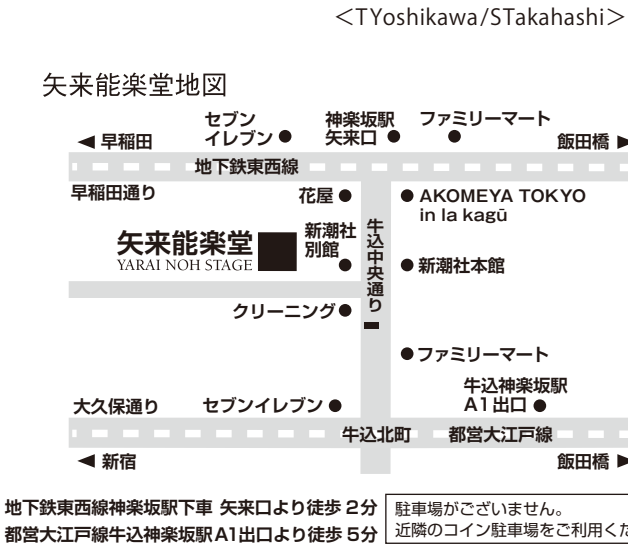
能のことも『源氏物語』のことも熟知出来ている身ではないため、この曲を全て理解することは私には難しいですが、浮舟の心の行き方には何か魅かれるものを感じます。(岩松)

## 舍利 (しゃり)

出雲の国の僧が都（ワキ）に上り、泉涌寺の仏舍利を拝み、感涙にむせんでいた。そのまま寺に泊まっていると、夜半、仏舍利を拝むべくひとりの男（前シテ）が現れた。しばし共に拝んでいたが、空にはわかにかき曇り、雷鳴が轟く。実はこの男は足疾鬼<sup>そくしつき</sup>で、仏舍利を奪い、天井を蹴破って彼方へ飛んで行ってしまった。

騒ぎに驚いて現れた寺の者（アイ）に、僧は足疾鬼が仏舍利を奪っていったことを語る。寺の者が祈りを捧げると韋駄天（ツレ）が現れ、逃げる足疾鬼（後シテ）を天上界まで追い駆け、元の下界に落とす。八方ふさがりとなった足疾鬼は泣く泣く仏舍利を渡すと、どこへともなく姿を消してしまった。

仏舍利とは釈迦の遺骨または歯を指します。前半最後に雰囲気が一変し、後半はこの仏舍利をめぐる、読んで字の如く足の疾い鬼である足疾鬼と、これも足の速い人に例えられる韋駄天との間で、この世を超えた壮大なゝ鬼ごっこ、が繰り広げられます。囃子のテンポが急に変わるなど聴きどころも多い曲です。(中村)



令和五年四月十五日(土)

第一部 十二時半開演(十二時開場)

第二部 十四時四十分開演(十四時二十分開場)

第三部 十六時五十分開演(十六時半開場)

全自由席

# 円満井会定例能

於 矢

来 能

楽

堂

〒162-0805

東京都新宿区矢来町六〇  
電話 〇三―三三六八一七三一

番組組

第一部

開場 十二時 開演 十二時半

清 経キリ 深津 洋子 村岡 聖美  
仕舞 熊 野クセ 柏崎真由子 地謡 梅井みつ子  
岩松 由実 中野由佳子

ツレ／老嫗 林 美佐  
後シテ／住吉明神 安達 裕香  
前シテ／老翁

能高砂 ワキ／阿蘇の神主 館田 善博 大鼓 柿原 弘和 太鼓 姥浦 理紗  
ワキ／友成 小鼓 大村 華由 笛 一噌 幸弘

アイ／所の者 山本凜太郎 萩野 将盛 金春 憲和  
後見 本田 光洋 地謡 大塚龍一郎 辻井 八郎  
本田布由樹 岩間啓一郎 本田 芳樹

第二部

開場 十四時二十分 開演 十四時四十分

竹生島 金春 憲和 金春 飛翔  
仕舞 西行 桜クセ 本田 光洋 地謡 山井 綱雄  
中村 昌弘 太田 直道

後シテ／浮舟の君の霊 岩松 由実  
前シテ／里女

能浮舟 ワキ／旅僧 大日方 寛 大鼓 大倉栄太郎 笛 小野寺竜一  
ワキ／旅僧 小鼓 幸 信吾

アイ／宇治の里人 若松 隆 大澤久美子 村岡 聖美  
後見 金春 安明 地謡 中野由佳子 梅井みつ子  
井上 貴覚 本屋 禎子 柏崎真由子

第三部

開場 十六時半 開演 十六時五十分

狂言 口真似 シテ／太郎冠者 山本 則孝 アド／主人 山本凜太郎  
アド／何某 若松 隆

ツレ／韋駄天 本田 芳樹  
後シテ／足疾鬼 中村 昌弘  
前シテ／里人

能舍利 ワキ／旅僧 福王 和幸 大鼓 柿原 光博 太鼓 小寺真佐人  
ワキ／旅僧 小鼓 飯富 孔明 笛 栗林 祐輔

アイ／寺の僧 山本 則孝 後藤 和也 山井 綱雄  
後見 横山 紳一 地謡 金春 飛翔 高橋 忍  
林 美佐 内田 善昭 本田布由樹

附祝言

〈終演予定 十八時十五分〉

● 体調にご不安のある方、体温三十七度五分以上の方はご来場をお控えください。  
● 三部制となります。各部チケットをお求めください。  
● 検温、マスク着用、手指の消毒、席を離しての着席にご協力ください。  
● 開場時間前のご来場はご遠慮ください。  
● 地下喫茶室は閉鎖しております。  
● 舞台進行・演出が常とは異なる場合がございます。  
● 出演者への面会はご遠慮ください。

円満井会定例能公演予定

於 矢来能楽堂 十二時半始

令和五年度 公演

令和五年 六月 十日(土) 敦盛 本田布由樹 杜若 柏崎真由子 葵 上森 瑞枝  
十月二十八日(土) 小鍛冶 中野由佳子 籠太鼓 本田 芳樹 融 林 美佐  
令和六年 一月二十七日(土) 籠村岡 聖美 羽衣替型 金春 憲和 鉢木井上 貴覚

入場料 各部 一般三、〇〇〇円(二括購入に限り全三部七、五〇〇円)  
各部 25歳以下優待券一、〇〇〇円(全三部三、〇〇〇円)

金春円満井会特別公演

◆令和六年三月二日(土)午後一時開演 国立能楽堂  
能「鶏立田」 本田 芳樹 能「道成寺」 柏崎 真由子

※都合により曲目・出演者に変更のある場合がございます。